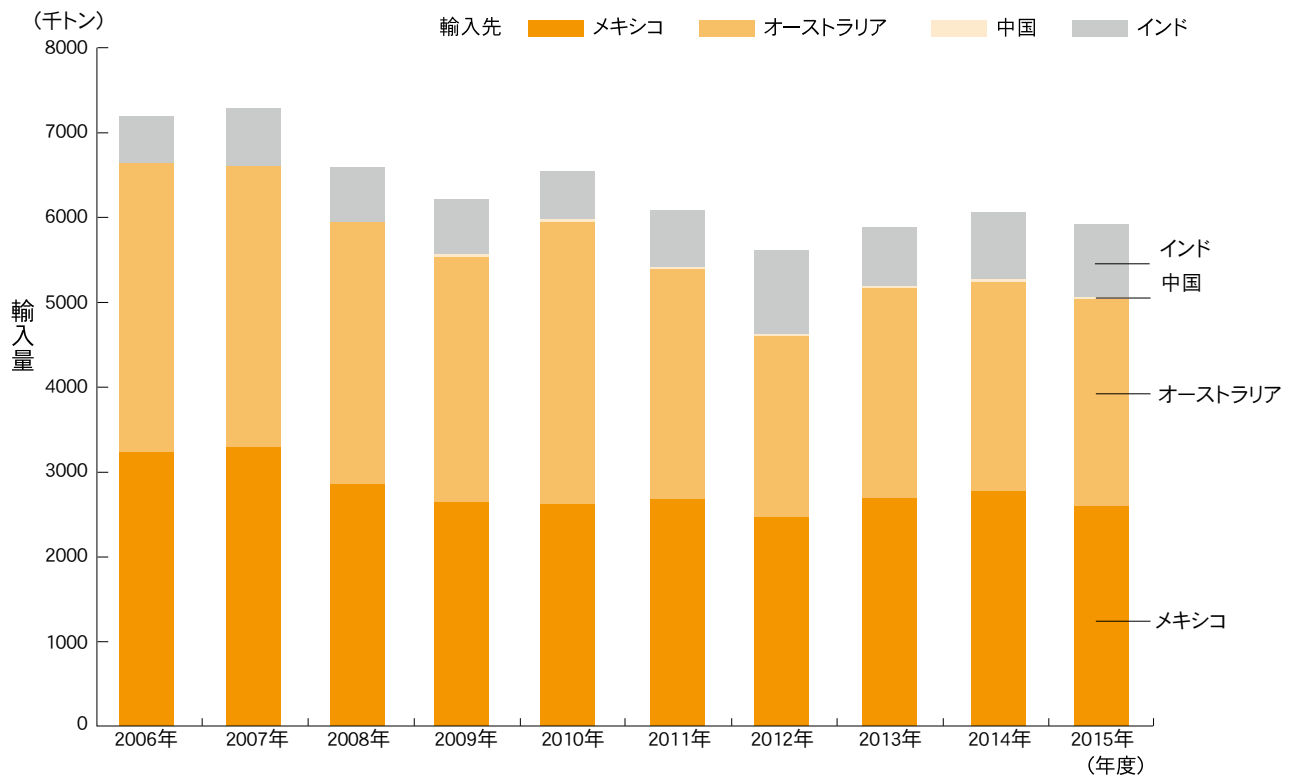


ソーダ工業用原料塩の輸入推移



(単位：千トン、構成比%)

年度	需要量	輸入量	国別輸入量							
			メキシコ		オーストラリア		インド		中国	
			数量	比率	数量	比率	数量	比率	数量	比率
2006年	7,203	7,217	3,245	45.0	3,530	48.9	439	6.1	3	0.0
2007年	7,219	7,382	3,367	45.6	3,319	45.0	696	9.4	—	—
2008年	6,589	6,613	2,779	42.0	3,163	47.8	671	10.2	—	—
2009年	6,174	6,211	2,656	42.8	2,892	46.6	656	10.5	6	0.1
2010年	6,638	6,576	2,652	40.0	3,329	50.2	648	9.7	8	0.1
2011年	6,074	6,100	2,692	44.1	2,634	43.2	765	12.5	10	0.2
2012年	5,701	5,667	2,456	43.3	2,189	38.7	1,015	17.9	7	0.1
2013年	5,856	5,884	2,786	47.3	2,383	40.5	711	12.1	4	0.1
2014年	5,790	6,065	2,881	47.5	2,356	38.8	824	13.6	4	0.1
2015年	5,941	5,913	2,670	45.6	2,415	40.8	796	13.5	3	0.1

現在、ソーダ工業の原料となる塩は、すべてが輸入されており、そのほとんどが、メキシコ、オーストラリア、インドの天日塩です。

昭和40年代以降に、地形、気象条件など、塩田の構築に適したメキシコ、オーストラリアに大規模塩田が整備され、日本国内でもこれに合わせて、受け入れ港湾が整備されたことなどから、この2カ国に輸入が集中しました。

2015年度はメキシコから2,670千トン、オーストラリ

アから2,415千トンのソーダ工業用原料塩が輸入され、この2カ国で全体の約86%を占めています。

この他、インドからは796千トンが輸入され、その比率は約14%となりました。

また、中国塩は、かつては年間100万トン以上が輸入されていましたが、中国国内のソーダ工業の発展から、塩の国内需要が急増し、中国塩の輸入はごく少量となっています。